

<p><b>フジミドリシジミの飼育法</b></p> <p>作成：2005.9.05 仲西周二</p>	
---	---

### 全般

フジミドリシジミの飼育は、メスアカミドリシジミと並んでゼフィルス類飼育の中でも手が掛からない双璧である。孵化幼虫が大きく丈夫であり23日程度と短期間で蛹化する

こと、植樹のイヌブナの水揚げが非常に良く、瓶挿しで取替えずに長期間使用できることなどがその主な理由である。

### 卵の越冬保管

他のゼフィルス類一般と同様である。1月一杯までは野外保管でも冷蔵庫保管でもよいが、2月に入ったら冷蔵庫保管をお勧めする。

植樹の芽吹きにピッタリ合せて孵化させるのに具合が良い。野外保管の場合は概して孵化が斉一で無い。

### 孵化と初齢幼虫の植樹への取り付け

卵の孵化も他のゼフィルス類一般と同様である。冷蔵庫から取り出した卵は、卵の周囲の枝もしくは樹皮を少し付けてカッターで削り取り、プラシャーレにろ紙を敷いた上に並べる。孵化に要する期間は1週間を見込めばよい。

えてからでは遅すぎである。ブナ類は新芽が展開して硬くなるのが早いので、それまでに摂食を終えて蛹化させるのがこつである。自然状態でも孵化幼虫はまだ開かない芽の中に潜入して内部を摂食し、緑の葉が展開する頃には既に大きく成長している。

卵を孵化させ幼虫を植樹に付ける時期は、植樹イヌブナの越冬芽が動き始めて以降芽が膨らみ切る前までであり、芽から緑の葉が見

使用するイヌブナの芽は、膨らみ始めてはいるが表面はまだ茶色の葉柄で覆われている。ピンセットの先で一部の葉柄を外し、更に下の薄皮も裂いて内部のミドリの部分が見えるまで穿孔しておく。孵化した幼虫を濡らした小筆の先で掬ってこの穿孔部に入れてやる。1芽1幼虫として共食いを予防する。



開芽前の芽に孔をあけ幼虫を付ける



こうして幼虫を付けたブナの新芽を小型のプラ瓶（寿司折の中の醤油瓶など）に瓶挿し（口元は脱脂綿で隙間を詰める）し、更にこ

れ全体を背高の透明ポリ容器中に収容し蓋をする。蓋に取り付け日を明記する。

・・・前頁の右図参照・・・

### 幼虫の世話～蛹化

幼虫取り付け直後から翌日ぐらいは、芽に潜入できない幼虫が居ないかを点検し、歩留まり低下の抑制を心掛ける。透明容器の外から点検して落ちた幼虫が居ればやり直しをする。それ以外は幼虫取り付け日から10日間は原則何もしない。取り付け後11～12日目（このために取り付け日の記録が幼虫ごとに必要）に、最初の餌の交換を行う。容器を開けて瓶挿しした芽を取り出すと、外観は変化が少なくても芽をピンセットで解体すると内部は激しく食われている。幼虫は比較的表面の葉柄の裏などに隠れている事が多い。時にはプラ瓶の下部や芽の表面に居たりもするので、取り出し時に潰したりしない様に外部から一通り様子を確認してから行うとよい。幼虫はピンセット引き締まった3齢幼虫となっている。

11日間とした理由は、芽の交換時期になること、幼虫の脱皮休眠時期を外すことが主な理由であり、経験的に把握した適当と思われる日数である。この頃野外の植樹は既に新葉を展開させており、これを使用して新葉の瓶挿しを作り3齢幼虫をこれにつけて同一容器内で飼育を続ける。今度は幼



終齢幼虫の食欲は旺盛

虫の摂食する姿が容器の外から観察できる。密閉容器内の飼育であるから餌は過密にならない量を入れるが、終齢幼虫の食欲は極めて旺盛なので、餌の減り具合を見ながらもう一度だけ餌の交換・補給を行っている。やがて重なった葉の間などで蛹化し羽化する。



孵化後11日目の3齢幼虫

